

平成23年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ コジマ シゲコ
氏名 小島 重子

研究期間 平成23年度

研究課題名 持続陽圧呼吸療法患者の社会的認知論に基づく教育プログラム開発の基礎的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	小島重子	看護学部	准教授

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

睡眠時無呼吸症候群（SAS）の標準的治療として確立されている持続陽圧呼吸療法（CPAP）は、患者が理解し積極的に継続するアドヒアランスがなければ治療効果は得られない。CPAPのアドヒアランスは使用時の不快感などの改善だけでは充分維持されず、自己効力感等社会的認知論導入の必要性が示唆されている。現在、CPAP患者の自己効力感とアドヒアランス等について充分な概念モデル下で作成され、かつ汎用性のある教育プログラムの開発は急務である。CPAP特異的自己効力感尺度、及びCPAP患者の自己効力感とアドヒアランス概念モデルの作成を行い、CPAP患者の社会的認知論に基づく教育プログラムを開発することを目的とした。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

1) 米国で開発されたCPAP特異的自己効力感尺度、及び日本人CPAP患者のフォーカスグループインタビューに基づくCPAP特異的自己効力感尺度試作版を、同意の得られたCPAP使用中患者約1,000名を対象に開発中であり、これを完成させる。CPAP特異的自己効力感尺度開発のための計量心理学的検討を以下の手順で行う。CPAP特異的自己効力感尺度試作版の項目及び因子分析により質問項目を確定しCPAP患者の自己効力感尺度とする。構成概念妥当性を検討するため、CPAP患者の自己効力感尺度得点とGSES得点、慢性疾患患者の健康行動に対するセルフ・エフィカシー尺度得点、及びCPAP使用時間との関連について相関係数を用いて検討する。研究対象者の内200名に対して、CPAP特異的自己効力感尺度を初回調査より約2週間後に再度実施した2回のデータより再現性を解析する。

2) CPAP使用中の患者約1,000名を対象とし、CPAP特異的自己効力感をはじめとするデータを基に、CPAP患者の自己効力感とアドヒアランスの概念モデル作成を行う。収集したデータに基づき分析し、CPAP患者の自己効力感とアドヒアランス及び関連要因の関連を検討する。この検討を基に先行研究との符合を確認しながら、SASのCPAP効果を向上させる教育プログラム開発の基盤となるCPAP患者の自己効力感とアドヒアランス及び関連要因の概念モデルを作成する。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1) CPAP 特異的自己効力感尺度の開発：自己効力感の提唱者である Bandura の概念枠組みを使用して米国で開発された CPAP 特異的自己効力感尺度、及び日本人 CPAP 患者のフォーカスグループインタビューを参考として尺度項目の準備を行った。フォーカスグループインタビューは、医療法人 SRA たかおかクリニックに通院中で同意の得られた CPAP 使用中の患者8名に、CPAP 特異的自己効力感尺度の邦訳について日本人における適合性を議論と、CPAP 使用における自己効力感に関する言葉を互いに述べてもらい、会話を録音して収集した。これらの情報を整理し CPAP 特異的自己効力感尺度試作版を作成した。同院通院中で、同意の得られた CPAP 使用中の患者約 1,000 名を対象とし、CPAP 患者の自己効力感尺度試作版、一般性セルフ・エフィカシー尺度 (GSES)、慢性疾患患者の健康行動に対するセルフ・エフィカシー尺度についてアンケート調査を実施すると共に、対象者の性別、年齢、AHI、CPAP 使用時間及び使用頻度データをカルテより得た。また、研究対象者の内 200 名に対して、CPAP 特異的自己効力感尺度を初回調査より約 2 週間後に再度実施した。アンケートの回収率は現在約 70%であるが、回収途上にある。これらのデータをもとに尺度開発を進める予定である。

2) CPAP 患者の自己効力感とアドヒアランス及び関連要因の概念モデル：1) 終了後に解析予定である。

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①OSAS	②CPAP	③アドヒアランス	④コンプライアンス
⑤自己効力	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

論文：小島重子，齋藤文子，柴山健三 閉塞性睡眠時無呼吸患者における持続陽圧呼吸療法の適切なアドヒアランス 梶山女学園大学研究論集 2012 in press.
今後、学会発表、学術雑誌への投稿を予定している。